

表示事項等について(案)

重量車における表示遵守事項の現状と課題

- より燃費の良い自動車を普及するため、ユーザーが燃費の良い自動車を選択できるよう、自動車の燃費については、カタログに記載することを義務づけている。
- 重量車については、より効果的な情報提供を図るため、技術仕様書(スペックシート)等を活用するなど、情報提供の方法が多様化していることがヒアリングにより確認された。
- このような状況を踏まえ、表示事項の記載をカタログに限らず、実態に合わせて見直すことが適当である。

重量車における表示遵守事項の取扱い

- 表示事項の表示については、情報提供の方法が多様化している現状を踏まえ、「カタログ又は自動車の選定にあたり自動車ユーザーに提示する資料」に記載して行うこととする。

重量車における燃費表示切替えについて

- 現行の省エネ法においては、重量車の製造事業者等に対し、見直し前の燃費試験法(以下「旧試験法」という。)により算定した燃費値を表示することを義務づけている。
- 一方、見直し後の新たな燃費試験法(以下「新試験法」という。)は、空気抵抗係数や転がり抵抗係数を一律値から実測値とするなど、より走行実態を反映したものとなっている。
- このため、より走行実態に近い燃費値をユーザーに提供するという観点から、新燃費試験法により達成判定を行う新燃費基準の目標年度である2025年度以前であっても、新試験法で測定した燃費値をカタログ、スペックシート等に表示することが適当である。

燃費表示切替えに伴い考慮すべき点

- 新試験法により燃費値を算定する場合には、タイヤメーカーの協力を得てタイヤの転がり抵抗係数を測定する必要があるが、計測すべきタイヤの種類が多数存在することから、当該係数の計測に時間を要する。
- また、新車は、型式指定時に新試験法による燃費値が算定されるため、出荷時に表示が可能となるが、すでに旧試験法で型式指定を受けている継続生産車については、再算定が必要となる。
- 以上のことから、新試験法による燃費表示への切り替えに要する期間を考慮する必要がある。

燃費表示の切替え

- より走行実態に近い燃費値をユーザーに提供するという観点から、新試験法により達成判定を行う新燃費基準の目標年度である2025年度以前であっても、新試験法で測定した燃費値をカタログやスペックシート等に表示することが適当であるため、早急に新試験法で算定した燃費値への切り替えを行うべきである。
- ただし、燃費値の算定に必要なタイヤの転がり抵抗係数の計測に時間を要することから、当面の間は、当該係数が未計測の自動車については、旧測定法で算定した燃費値を表示するものとするが、当該係数が計測されたものから順次、新測定法で算定した燃費値を表示することが適当である。
- 製造事業者等においては、上記に留意し、可能な限り早急に新試験法による燃費値が取得できるようタイヤメーカー等の関係団体等と連携することが望まれる。

